

動画解説まとめ 11 / 学び方・考え方

AIの学びを実践に変える考え方

夏のイベント告知回から、今後も読み返せる学び方の話を抜粋。基礎を飛ばさず本の通りに作り、作例を試し、完成まで進めるという実践の姿勢をまとめました。

この動画の要点

元動画は、8月17日から23日に予定された配信・対談・セミナーを紹介する告知回です。この資料では当時の募集を再案内せず、あべさんが語った学び方と行動の話を整理しました。中心は、初心者向けの本を読み飛ばさず、紹介された課題を実際に作ってみること。与沢翼さんがLINEスタンプ制作を基礎から試したとされるエピソードを通じて、知識を得ることと行動に移すことの違いを伝えています。

01 元動画はイベント告知回で、具体的なAI操作を一通り学ぶ実演動画ではない。

02 学んだ基本を『知っている』で済ませず、実際に作ってみる姿勢が紹介されている。

03 作例を試し、その違いを見ながら組み合わせることも学びになる。

04 実践者の結果だけでなく、普段どのように行動しているかに目を向ける。

05 『1週間で人生が変わる』はあべさんの経験に基づく呼びかけで、期限付きの成果保証ではない。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：1週間で人生変えます！

<https://www.youtube.com/watch?v=Ro2npB0G9b0>

この回の位置づけ：短期間で行動するきっかけづくり

動画の該当箇所 1:17 / タップして開く

あべさんは、書籍の電車広告に合わせて1週間の企画を行うと告知しています。テーマは、AIを使ってもう1つの収入を作ること。配信、実践者の密着動画、対談、セミナーなどを連続して予定したという内容です。日程や申込案内は、その時点の企画に関する情報です。

本を買った人が全員、書籍のタイトルにある収入を得ているわけではないとも話しています。企画の意図は、実際に取り組む人を増やしたいというものです。この資料では、当時の募集や開催日を現在の案内として扱わず、動画にある学び方の話を抜き出しています。具体的な収益化の全手順や、告知先のセミナーの内容まで含んでいるわけではありません。

- ・ 動画の中心は、当時の1週間の企画と、その狙いの説明。
- ・ この資料の対象は、告知の中で語られた実践姿勢とエピソード。
- ・ 申込み先や参加条件を、現在も有効な情報として再掲載していない。

実践者を見るときは、日常の行動に注目する

動画の該当箇所 8:26 / タップして開く

密着動画の紹介では、成果を出した人が特別なことだけをしていたのではなく、本や動画で伝えている基本をそのまま実行していた点に注目しています。あべさんが伝えたいのは、目立つ実績だけでなく、どの時間帯に何をし、限られた時間の中でどうAIを使っているかという普段の行動です。

また、対談動画についても、手先のテクニックだけでなく、どう考え、どう行動しているから結果につながるのかを聞いたと説明しています。この告知回では、それらの実践者の詳細な作業内容までは説明していません。したがって、密着先の1日の時間割や、対談相手の具体的な手法を推測で補うことはしていません。

- ・ 成功例を見るときは、金額に加えて日々の作業や取り組み方に目を向ける。
- ・ 『特別な才能だから』と片付けず、実際にまねできる行動を探す。
- ・ 他の動画で公開すると説明された内容と、この動画内で説明された内容は分ける。

基礎の課題を読み飛ばさず、まず本の通りに作る

動画の該当箇所 24:31 / タップして開く

後半では、与沢翼さんがあべさんの本を読み、LINEスタンプ制作を試したというエピソードが紹介されます。あべさんが制作を提案すると、翌朝から取り組み、その日のうちに作って申請し、審査後には販売まで進めたと話しています。ここで重視しているのは、著名な人がスタンプを作ったこと自体より、新しい分野では基礎から取り組んだ姿勢です。

あべさんは、これを『本の使い方』として捉えています。買っただけ、読んだだけで止まらず、初心者向けに用意された課題を実際に行うこと。内容を知っている気がして読み飛ばすより、本の説明に沿って1つのものを作る方が、その分野を経験することにつながるという話です。

- ・ 本の中にある基礎課題を、実際の制作として試す。

- ・ 知識や立場にかかわらず、新しい分野では基本から始める。
- ・ 制作後の申請・販売まで進めた話は登壇者による事例紹介であり、この資料に操作手順を収録しているわけではない。

作例を一度ずつ試し、自分なりの違いを見つける

動画の該当箇所 26:37 / タップして開く

同じエピソードでは、本に載っている画風の一覧を一通り試し、さらに自分なりに組み合わせながらLINEスタンプを作ったと説明しています。単に最初に出たものを受け取るのではなく、例を試すことで違いを知り、楽しみながらこだわって作った点を、あべさんは評価しています。

その後も、書籍で紹介している他の制作に取り組み、SUZURIでTシャツを作ることなどを実践したと話しています。資料だけを読んで満足するのではなく、例を作り、違いを見て、次の制作へ進むという流れです。ただし、元の画風一覧や書籍のプロンプト本文は、この字幕には出ていません。この資料にも、実物を見たかのような一覧は加えていません。

- ・ 紹介されている例を試し、出力の違いを経験する。
- ・ 例を組み合わせるなど、自分なりの工夫を加えてみる。
- ・ 作った経験を次の課題につなげる。

機会を具体的な行動につなげる

動画の該当箇所 29:29 / タップして開く

あべさん自身の行動としては、本の実践をしてくれた相手に、コラボ動画としてその話を残したいと具体的に提案した流れが語られています。相手の了承を得てから移動の手配をし、撮影を実現しました。単に会いたいと思っていただけではなく、何をしたいのかを伝えて行動したという経験です。

終盤の『数日でも人生が変わる』という言葉は、この出会いや撮影が自分にとって大きな財産になったという実感に基づいています。誰もが1週間で一定の収入を得られるという説明ではありません。学びを作業に移すこと、事例を試すこと、機会があれば具体的に動くことが、この告知回から持ち帰れる実践の姿勢です。

- ・ 実現したいことを具体的に伝え、相手の了承を得て進めた事例。
- ・ 短期間という表現は、あべさんが感じた変化の大きさを伝えるもの。

実践の進め方

01 基礎課題に取り組む

動画で語られた実践例を順に整理したものです。初心者向けに紹介されている課題を読み飛ばさず、本の説明に沿って作ってみる。動画の例はLINEスタンプ。

動画 24:39

02 紹介された作例を試す

本に載る画風の例を試し、違いを見て、自分なりに組み合わせる。画風一覧そのものは、この資料には含まれていない。

動画 26:37

03 制作の先まで進める

紹介された事例では、作成後に申請し、審査後に販売まで進めていた。操作の詳細は元の教材を確認しながら行う。

動画 25:48

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部による活用例・動画の逐語プロンプトではありません】この資料を根拠に、記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進めるようにしてください。まず、読んだ本や見た動画、実際に試した課題、まだ手を動かしていない課題を質問してください。その回答をもとに、紹介された基礎を1つ実践する計画と一緒に整理してください。この資料にはLINEスタンプ制作の操作手順や書籍の画風一覧は含まれないため、それらを想像で再現しないでください。元の教材が必要な場合は、その箇所を示してください。当時のイベントへの申込みを現在の行動として提案せず、1週間以内の収益を保証しないでください。

資料について

- ・ YouTube自動字幕をもとにした要約です。元動画は夏の企画・ イベントの告知回で、本文は学び方と行動の話を中心に抜粋しています。
- ・ 動画内の日程・ 申込案内・ 開催条件は当時の情報です。現在の募集案内ではありません。
- ・ 登場人物の実践や成果は、あべさんが動画内で紹介した話です。自動字幕で不明確な実績数値・ 人名表記の箇所は再掲していません。
- ・ 実践手順は動画内のエピソードを整理したものです。具体的なAI操作や書籍の未収録部分を補ったものではありません。